

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

號六第

卷二第

## 論說

●戰後ノ關稅團體ノ計畫

法學博士 戶田 海市  
講 師 高田 保馬

## 研究

●植民政策上ノ根本問題

法學博士 神戶 正雄  
講 師 本庄榮治郎

## 雜錄

●不換紙幣流通ノ根據ニ就テ

法學博士 戶田 海市

●在外正貨ノ處分ニ就テ

法學博士 神戶 正雄

●數トリ切手貼用法

教 授 財部 靜治

●全米貨幣統一案

助教授 河田 嗣郎

●獨逸<sup>ニ於ケル</sup>工場衛生問題ノ研究

助教授 山本美越乃

●經濟雜誌(三)

法學博士 田島 錦治

●再ビ本多利明ノ著書ニ就テ

講 師 本庄榮治郎

●歐洲戰爭ノ經濟的說明

法學博士 河 上 肇

●戰時戰後ノ佛國物價

法學博士 小川 郷太郎

●香港政廳卜對獨貿易

法學博士 佐藤 丑次郎

## 歐洲戰爭ノ經濟的説明

(セーリリぐまん教授所論ノ大要)

法學博士 河 上 肇

セーリリぐまん教授ノ『歴史ノ經濟的説明』<sup>(1)</sup>ハ、まるく  
すノ經濟的史觀ヲ初メテ英米ニ紹介シタモノトシテ、出版  
ノ當時頗ル斯界ノ注意ヲ惹キタルモノナルガ、余ハ同書ノ  
公刊後間モナク著者ノ承諾ヲ得テ其翻譯ヲ試ミ、題シテ『新  
史觀』ト名ケ之ヲ我國ニ紹介シタコトガアル。爾來既ニ  
十餘年ヲ經過セシ今日、教授ハ新タニ『現戰爭ノ經濟的説  
明』ト題スル一論ヲ公ニシタ。コハ教授ノ所謂歴史ノ經濟  
的説明ヲバ現ニ行ハレツツアル歐洲戰爭ノ説明ノ爲ニ應用  
シタルモノニテ、元ト片々タル短篇ニ過ギズト雖モ、近時  
戰爭ニ關スル著作物中最モ注意スベキモノノ一ト信スル。

(1) Economic Interpretation of History.

雜 錄

(2) 明治三十八年初版、大正三年再版

(3) 元ト Problems of Readjustment after the War 中ノ一  
篇トシテ公ニシタルモノデ、余ノ見タルハ其抜刷 (New  
York, 1915) デアル。標題ハ An Economic Interpretation  
of the War 謂ヒ、二十六頁ヨリ成ル小冊子デアル。

一、吾人ヲシテ一段ノ高所ニ立タシメヨ

今次ノ大戰ノ説明ニ關シテハ、其說ノ數カ殆  
ド論者ノ數ホドアルト云ツテモ宜イ。ソウシテ  
其説明ハ又種々ノ方面ニ亘ツテ居テ、或ハ個人  
ノ野心トカ、王朝ノ差異トカ、軍國主義トカ、  
領土擴張ノ希望トカ、人種ノ反感トカ、乃至ハ  
國家ノ自由獨立トカ云フヤウナ事柄ガ、開戦ノ  
眞原因トシテ其レノ人々ニ依ツテ唱ヘラレ  
テ居ル。又交戦國自身ノ言フ所ヲ聽ケバ、せる  
ガあハ其獨立ノ爲ニ戦フト云ヒ、奧太利ハ自國  
ノ政治的分裂ヲ妨グガ爲ニ戦フト云ヒ、露國ハ  
ばるかん諸邦ノ自由ヲ保護スルガ爲ニ戦フト云  
ヒ、佛蘭西ハ嘗テ失ヒタル諸州ノ自由ヲ恢復ス  
ルガ爲ニ戦フト云ヒ、英國ハ獨逸ノ軍國主義ヲ  
打破シ小邦ヲ保護スルガ爲ニ戦フト云ヒ、獨逸  
ハ人並ニ世界ノ利權ヲ得ンガ爲ニ戦フト云ヒ

更ニ日本ハ、一然リ日本ノ如キハ、小國ノ保護  
 デハナクテ却テ大國ノ保護ノ爲メ、即チ支那ヲ  
 獨逸ノ壓迫ヨリ救フト云フガ爲ニ戰ヲ始メタト  
 云ツテ居ル。此ノ如クニシテ各交戰國ハ何レモ  
 皆或ル神聖ナル目的ノ爲ニ戰ツテ居ルノデ、自  
 分等ノ要求ハ全ク正義ニ適ツテ居ルト信ジテ居  
 ル。サウシテ相手方ノ地位ハ相互ニ全ク理解シ  
 得ザルノミナラズ、寧ロ恐ロシイ憎惡ヲ募ラセ  
 テ居ル。今吾々ノ同情ハ何レニ在ルニモセヨ、  
 吾々ハ歴史哲學ノ一學究トシテ、是等交戰諸國  
 ノ小利害ヨリ超越シタル立脚地ニ立チ、今少シ  
 高所大所ヨリシテ今次ノ戰亂ノ由ツテ來ル所如  
 何ヲ考察スルノ必要ガアル。

## 二、近世國家ノ成立及ビ其經濟的觀察

吾人ノ觀察ノ出發點ハ近世民族主義ノ存在デ  
 アル。蓋シ近世ノ政治的生活ハ民族の基礎ノ上  
 ニウチ建テラレタルモノニテ、其點ニ於イテ古  
 代及ビ中世ノ政治的生活ト大ニ其趣ヲ異ニスル  
 所ガアル。古代又ハ中世ノ都市國家ナルモノハ  
 政治的團體ニハ相違ナカリシモ、民族ト云フ事

實ニハ何等ノ關係ナカリシモノデアアル。當時ハ  
 people モアリ races モアリ states モアリタレド  
 只 nation ナルモノノ無カリシ時代デアアル。例  
 ヘバ希臘ニハ種々ノ國家アリテ、互ニ相爭ヒ居  
 タレドモ、當時ハ只希臘人アリシノミニテ、希  
 臘民族ナルモノハ居ナカツタノデアアル。又羅馬  
 ハ世界ヲ征服シ、カクテ羅馬帝國ナルモノハ多  
 クノ人民ト多クノ人種トヲ包括シ居タリ。サレ  
 ド當時羅馬民族ナルモノハ決シテ成リ立チ居リ  
 シ譯ニ非ズ。其後中世ノ末葉ニ及ビテハ、伊太  
 利及ビ獨逸ノ諸都市ナルモノ起リ、屢々其隣人  
 ト戰ヒタレドモ、併シ當時ニ於イテモ伊太利國  
 又ハ獨逸國ナルモノハ固ヨリ存在シ居タルニ非  
 ズ、況ンヤ伊太利民族乃至獨逸民族ト云フガ如  
 キニ於イテヲヤ。

今之ト異リ、近世ノ政治的組織ハ凡テ民族ノ  
 基礎ノ上ニ建テラレシモノデアアル。然ルニ是等  
 十七世紀ニ於ケル英國及ビ歐洲大陸ノ諸民族國  
 家ノ成立ハ、今日凡テノ史家ノ認ムルガ如ク、  
 主トシテ當時ニ於ケル經濟事情ノ變遷ニ促成サ

レタモノデアル。蓋シ當時ハ經濟學者ノ所謂地方經濟又ハ都市經濟ナルモノガ崩レテ將ニ國民經濟ニ移ラントセシ時代デアル。最モ有力ナル經濟上ノ力タリシ土地ガ、商工業上ノ資本ノ勃興ニ依ツテ其勢力ヲ失フニ至リシ時代デアル。然ルニ土地ハ其性質固ト地方的ノモノタルニ反シ、資本ハ其本質上地方的ノ束縛ヲ超脱セルモノデアル。所謂民族の國家ノ成立ハ斯カル經濟事情ノ變化ニ伴フテ發生セシモノニ外ナラス。

之ヨリ以來今日ニ至ル迄、國民的生活ノ基礎ハ常ニ經濟的性質ヲ有シツツアル。余ハ勿論、一刻タリトモ他ノ諸要素ノ協力セルアルヲ否認セントスル者デハ無イ。民族の自覺ハ種々ノ力ノ合成果ニシテ、就中地理的條件、共同ノ言語共通ノ傳説、共有ノ社會的及ビ政治的理想ナルモノハ何レモ重キヲ爲シツツアルモノデアル。余ハ是等ノ諸要件ヲ無視シ又ハ輕視セントスル者デハ無イ。乍併吾々ガ若シ遡ツテ過去數世紀間ノ歴史ヲ繙クナラバ、一方ニハ人種ノ異レル者ガ相合シテ鞏固ナル國民ヲ形造レルト同時ニ

他方ニハ同ジ人種ニ屬シ同ジ宗教ヲ奉セル者ガ只別々ノ國民ヲ形造リ居ルガ爲ニ激烈ナル爭鬪ヲ事トセルノ事實ヲ看過シ能ハヌデ有ラウ。例ヘバ英國ト米國トノ戰爭、普魯西ト奧大利トノ戰爭、智利ト秘露トノ戰爭ノ如キ、其例ニ乏クナイ。今是等ノ場合ヲ説明セントスルニ當リテ人種の反感ヲ以テセントスルガ如キハ元ヨリ當ラズ。之ニ反シ吾々ガ若シ是等國民間ノ不和ヲ説明スルニ當リ、其經濟的事情ヲ考慮ノ中ニ入レンカ、吾々ハ往々ニシテ歴史ノ秘密ヲ發クトラ得ル。今吾人ガ今次ノ戰爭ヲ觀察セントスルモ亦タ此ノ見地ニ依ル。

### 三、近世民族主義ノ成立時期

若シ余ニシテ歴史ヲ讀ミ誤リ居ルニ非ザレバ、古往今來政治的團體ノ衝突ノ主タル原因ト爲レルモノハ、其團體ノ發達ヲ左右スル經濟的條件ニ外ナラス。固ヨリ是等ノ經濟的條件ナルモノハ、時代ノ異ナルニ從フテ其表現同ジカラズ。中ニ就キ、是等ノ政治的團體ガ其膨脹ヲ希望スルニ至ル最モ顯著ナル最初ノ理由ハ、増加シ

來ル所ノ人口ニ向ツテ食料ノ供給ヲ確保セントノ欲求デアアル。例ヘバ其昔亞細亞ヨリ歐羅巴ニ向ツテ人口ノ大移動アリタルモ、又所謂歐洲地方ノ蠻人ガ相率キテ南下スルニ至リタルモ、其ノ主タル原因ハ、其原住地ノ地方ガ次第ニ枯竭シテ、其家畜ノ爲メ新鮮ナル牧地ヲ求ムルノ必要ニ迫マラレシニ在ル。羅馬トかるたじトガ結ビテ解ケザリシ秘密ハ、彼等ガ共ニ世界ノ穀倉タルししリーヲ保有セント望ミシニ在ル。

第二段ニ政治的膨脹ノ經濟的理由ト爲リシモノハ、其團體ノ生産力ヲ發達セシメントノ希望デアアル。而シテ此者ハ常ニ二ノ形式ノ何レカラ探レリ。

其一ハ、農業ノ狀態未ダ幼稚ニシテ、資本ノ應用乏シク、農法ノ猶粗放ナル場合デアアル。斯カル場合ニ於イテ、殊ニ奴隸制度ノ行ハレ居ル國々ニ於イテハ、常ニ新鮮ナル土地ノ供給ヲ受クルコトガ必要ニナル。是レ米國ノ歴史ニ於イテめきし戦争ナルモノノ起リシ所以ニシテ其他之ト類似ノ戦争ハ歷史上枚擧ニ遑ナキホド

デアアル。

其二ハ、農業ノ外ニ商業ガ發達シテ居ル場合デアツテ、殊ニ其國ガ海ニ濱シテ居ル場合ニハ商業上ノ利潤ニ依リテ富ヲ増加セントノ慾望ガ熾ニナリ、是ガ爲メ商業通路ノ支配ヲ目的トスル所ノ戦争ガ、歷史上屢々企テラレルコトニ爲ツテ居ル。古クハふいにしあヨリ近クハはんざノ諸都市及ビグエにすノ盛時ニ至ルマデ、文明ノ興廢ガ殆ド海權ノ消長ニ伴ヒ居ルハ是ガ爲デアアル。

併シ是等ノ變化ハ凡テ近世國家成立以前ノ事柄デアアル。然ラバ近世國家成立以後ニ於ケル民族間ノ鬭爭ハ、果シテ如何ナル點ニ於イテ過去ノ歴史ト相違スル所ガアル乎。

答ヘテ曰ク、近世民族主義成立ノ初期ニ於ケル事情ハ、既往ノ歴史トサシタル變化ナク、只過去ニ行ハレタル上記三個ノ事情ガ此時代ニハ相合シテ同時ニ行ハレ居タルダケノコトデアアル。

蓋シ印度トノ陸上交通がもはめだんノこんす

たんちのーぶる征服ニ依ツテ閉塞サレシコトト、新大陸ノ發見サレシコトトハ、十六世紀及ビ十七世紀ニ於ケル民族主義ノ發達ニ與ツテ力アリシニ大原因デアアル。西班牙、葡萄牙、和蘭、佛蘭西、英國等ノ廣人ナル植民の帝國ノ相次イデ勃興スルニ至リシハ、正ニ此時代デアアル。而シテ是等初期ノ植民制度ハ、恰モ中世ノ封建制ガ近世ノ資本制ニ移ラントスル過渡ノ時代ヲ劃スルモノデアアルガ、今其根底ニ横ハリシ所ノモノヲ尋ヌルニ、ソハ或種ノ食料ニ就キ其供給ノ面積ヲ増加セントノ欲望ナルカ、或ハ原料ノ生産ニ適當セル新鮮ナル土地ヲ獲得スルコトニ依リテ生産力ノ基礎ヲ擴張セントノ欲求ナルカ、或ハ其レ自身富ノ精髓ナリト考ヘラレシ貴金屬類ヲ獲得セントノ要求カニ外ナラザリシモノデアアル。然ルニ此ノ如キ結果ノ何レヲ得ントスルモ先ヅ必要ナルモノハ強大ナル海軍デアツタ。而シテ斯カル海軍ノ創立及ビ維持ハ之ヲ民族全體ノ力ニ俟ツノ外ハ無イ。是レ此時代ニ當リテ、歐洲諸民族國家ノ成立ヲ見ルニ至リシ所以デアアル。

#### 四、近世民族主義成立後ノ第一期

近世民族主義既ニ確立スルヤ、始メテ從來ノ政治的團體ノ鬭爭ニ見ルコト能ハザリシ一要素ノ發生シ來ルヲ見ル。即チ此時期ニ入ルニ及ビテハ、從來主トシテ原料ノ供給地トシテノミ重キヲ爲セシ植民地ハ、新タニ工業品ノ販路トシテ重大ナル意義ヲ有スルコトト爲リ、カクテ國家間ノ衝突ニ新タル經濟的一要素ヲ加フルニ至リシモノデアアル。蓋シ時代ノ經過ニ伴ヒ、植民地ノ利潤ヨリ生ジ來リシ資本ノ蓄積ハ、次第ニ産業上ニ利用セラルルコトト爲リ、是ガ爲メ諸國ノ經濟組織ハ資本ノ滲入ニ由リ漸ク面目ヲ一新スルニ至リシモノデアアル。中世ニ於ケルギルどノ組織ガ次第ニ崩レテ、懸テハ工場組織ノ成立ヲ見ルニ到ルノ橋渡シト爲リシ家内工業ガ各地ニ於イテ行ハルルニ至リシハ、正ニ此時代ノコトデアアル。是ニ於イテカ是等國民的産業ヲ保護シ、其競争者ヲ妨グコトガ大切ナ問題ト爲ツテ來タノデ、其ヨリ以後、植民地ハ原料ノ供給所トシテヨリモ寧ロ工業品ノ有利ナル市場ト

シテ次第ニ重キヲ爲スニ至ツタモノデアル。所謂重商主義 Mercantile System ナルモノ此ノ如クニシテ起ル。——實ヲ云ヘバ重商主義ノ名ハ寧ロ當ラズ、勿論母國及植民地ノ繁榮ハ海上貿易ニ依リテ營マルル生産物ノ交易ニ依頼セシハ明カナレドモ、元ト此主義ノ本旨トセシ所ハ國家の基礎ノ上ニ國內ノ産業ヲ發達セシメントスルニ外ナラサリシモノデアル。——而シテ第十七世紀及ビ第十八世紀ニ起リシ大戰ハ、海上權ヲ獲得シ植民地ヲ擴張センガ爲メニ行ハレシモノニテ、歸スル所ハ凡テ、漸ク國內ニ於イテ勃興シ始メタル資本制の諸産業ヲ益々發達セシメントセシニ外ナラス。要スルニ、斯カル事情ノ繼續シ居ル限り、近世民族主義ノ特徴ハ産業ノ保護ト爲ツテ現ハレシモノデアル。

五、近世民族主義成立後ノ第二期

然ルニ第十九世紀ニ入ルニ及ビテ、英國ハ更ニ一步ヲ進メテ次ノ時期ニ入ツタ。蓋シ當時ノ英國ハ未曾有ニ極端ナル保護主義ヲ實行スルコトニ依リテ充分ニ國內産業ノ發達ヲ遂ゲ、且其

世界的帝國ノ大部分ヲバ其競争者ヨリ扭テ取ルヲ得タレバ、最早此上ハ保護主義ヲ棄テテ自由貿易主義ヲ探ルコトガ英國ノ利益ト爲ツタノデアル。元來自由貿易主義ハ何時デモ消費者ノ利益ト云フコトヲ其裏面ノ口實トシテ居ルケレドモ、實際ハ凡テ生産者ノ爲メニ唱へ出サレタモノデアル。恰モ好シ、カノ産業革命ハ——産業革命トハ生産經過ノ凡テノ階段ニ向ツテ資本制ガ完全ニ應用セララルルニ至ルコトヲ意味スル——先ヅ英國ニ起リ、其結果獨リ英國ノミガ世界産業界ノ霸王ト爲ルコトヲ得タ。從來英國ノ競争者タル國々ハ産業ノ發達上遙カニ英國ニ後レ、到底之ト競争スルコト能ハザルノミナラス、寧ロ英國ニトリテハ其工業品ノ好個ノ販路トナルニ至リシヲ以テ、爾來英國ハ是等ノ國々ト平和ナル交通ヲ維持センコトヲ熱望スルニ至ツタ。畢竟英國ニテ唱へ出サレタル自由貿易主義、萬國平和主義ハ、斯カル事情ニ本ツキ、英國ノ世界ニ於ケル産業上ノ獨占ヲ確保センガ爲メニ唱へ出サレタモノデアル。

併シ機械ノ應用、工場組織ノ利用ハ、獨リ英國ニノミ限ラルルヲ得ズ、其後次第ニ歐洲大陸ニ普及スルニ至ツテ、更ニ新タナル形勢ヲ呈スルコトト爲ツタ。即チ先ヅ第一ニ、獨逸及ビ伊太利ニ於イテ、國家的規模ノ上ニ經濟力ヲ動員スルガ爲メ、新タニ國家ノ統一ヲ見ルニ至ツタ。而シテ國家的統一ニシテ既ニ成ルヤ、數世紀前ニ重商主義ノ特徵トサレシ所ノモノト全ク同ジヤウナル諸種ノ産業保護政策ガ相次イデ實行セラルルコトト爲ツタ。所謂新重商主義 Neo-mercantilism ナルモノハ此ノ如クニシテ起ツタ。他方佛蘭西ニ於イテハ早クヨリ國家組織ノ成立ヲ見ルニ至リシガ爲メ、佛蘭西ハ既ニ此時代ニ於イテ英國ニ對峙シテ世界ノ市場ニ競争スルノ地位ニ進ンダ。第十八世紀ニ入りテ英佛二國ガ植民地ノ擴張ニ苦心シ、遂ニハ亞弗利加ニ於イテ危クモ是等二強國ノ衝突ヲ見ントスルニ至リシガ如キハ是ガ爲デアアル。猶獨逸ノ保護政策ハ其後次第ニ其效果ヲ奏シ、カクテ第十九世紀ノ終リニハ、獨逸モ亦タ佛蘭西ト共ニ英國ニ對スル

世界市場ノ競争ニ參加スルニ至リシ次第デア  
ル。余ハ姑ク此ノ製品輸出ノ競争時代ヲ以テ、  
近世民族主義成立後ノ第二期トスル。

#### 六、近世民族主義成立後ノ第三期

獨逸ガ保護政策ノ時代ヲ經過シテ販路競争ノ  
時代ニ入ルニ至リシコトハ上述ノ如クナルガ、  
只コレノミニテハ今次ノ戰爭ノ原因未ダ説明サ  
ルルニ至ラズ、乃チ之ガ説明ノ爲ニハ、吾人ハ  
進ンデ近世資本制ノ最重要ナル一面ヲバ更ニ  
觀察スルノ必要ガアル。思フニ一國ノ産業ガ保  
護時代ヲ經テ其基礎ヲ確立シ、次イデ工業品ノ  
輸出ヲ爲スニ至リタル後ハ、更ニ資本輸出ノ時  
代ニ進入スルモノデアアル。蓋シ一國ノ産業ガ或  
程度以上ノ發達ヲ爲ス時ハ、商工業上ノ利潤ガ  
次第ニ集積サレテ資本ガ豊富ニナル爲ニ、之ヲ  
國內ノ事業ニ投ズルヨリモ、寧ロ其剩餘ノ資本  
ハ之ヲ海外ノ未開國ニ放下スル方高率ノ利益ヲ  
擧ゲ得ルコトニ爲リ、カクテ貨物ノ輸出ト同時  
ニ資本ノ輸出ガ極メテ重大ナ問題ニ爲ツテ來ル  
ノデアアル。



英國ハ今ヨリ一二代以前ニ斯カル時代ニ到達シタモノデアル。爾來英國ハ南北蘭亞米利加ヲ始メトシ、其他世界ノ諸地方ニ向ツテ其ノ剩餘ノ資本ヲ輸出シ、カクテ今日ニテハ其資本ノ利子ノ爲ニ毎年巨額ノ輸入超過ヲ見ツツアル次第デアル。佛國ニ於ケル工場制ノ普及ハ英國ニ後レシヲ以テ、其ノ資本輸出ノ時代ニ入レルコトモ亦タ英國ニ後レタルガ、殊ニ佛國ハ次ニ述ブルガ如キ二個ノ理由ニ依リテ、資本ノ輸出ニ關シテハ左シテ有力ナル英國ノ競争者ト爲リ得ザリシモノデアル。其第一理由ハ、佛國ニ於ケル人口増加ノ停止デアル。是ガ爲メ人口一人當リノ富ハ無論増加セシモ、全體ニ於ケル資本増殖ノ速度ハ到底英國ノ如ク盛ナルコト能ハザリシモノデアル。其第二ノ理由ハ、一般ニ佛蘭西人ハ保守的ノリト云フコトデアル。是ガ爲メ其剩餘ノ資本ハ主トシテ西班牙、白耳義等ノ隣國ニ投資サレ、其後特別ノ理由ニ依リテ露西亞ニ輸出サレシ位ノコトデアル。斯カル事情ニ基キ佛國ハ世界ノ資本市場ニ於イテ到底有力ナル英

國ノ競争者ト爲リ得ザリシモノデアル。然ルニ他方獨逸ニ於ケル産業ノ進歩ハ近時誠ニ著シキモノアリテ、間モナク所謂資本輸出ノ時代ニ入レルノミナラズ、殊ニ今世紀ニ入ルニ及ビテハ年ヲ追フテ益々大規模ノ資本輸出ヲ試ムルコトト爲リ、是ガ爲メ從來殆ド英國ノ一手ニ歸屬セシ世界ノ資本市場ハ、茲ニ有力ナル競争者ヲ加フルニ至リシモノデアル。此ノ如クニシテ、今次大戰ノ根本原因ト爲リシ英獨ノ葛藤ハ結びテ遂ニ解ケザルニ至ル。

### 七、今次ノ戦争ノ經濟的説明ノ歸結

英獨兩國ノ間ニ於ケル根本的ノ經濟的利害ノ衝突ハ上述ノ如クデアルガ、此外ニ猶交戰諸國ノ間ニモ種々ナル經濟的利害ノ衝突アルハ勿論デアル。例ヘバ未ダ農業國ノ狀態ヲ脱セザル彼ノ露國ガ、頻リニこんすたんちのーぶるヲ得ント欲スル所以ノモノハ、一ニハ其ノ産出セル小麦ノ輸出ノ爲ニ自由ナル通路ヲ得ンガ爲デアリ、一ニハ不凍港ヲ得ンガ爲デアリ、又一ニハ其國富ノ基礎ヲ鞏固ニセンガ爲デアル。産業上

ノ發達ニ於イテ露國ヨリモ稍々優リ居レル塊太  
利ハ、勿論ぼるかん諸邦ニ於ケル干涉ヲ防グコ  
トニ重大ナル利害關係ヲ有ツテ居ル。獨逸ハ  
又塊太利ト密接ナル關係ヲ有シ居ルガ爲ニ、塊  
太利ト殆ド同ジャウニ露國ノ欲求ヲ妨害スルコ  
トニ利害關係ヲ有ツテ居ル。最後ニ佛蘭西ハ露  
國ト有力ニ協力スルノ機會ダニ生ズル限り、何  
時ニテモ其ノ嘗テ失ヒタル諸洲ヲ恢復セントノ  
希望ヲ有スルハ明カデアル。此ノ如ク是等交戰  
諸國ノ間ニモ種々ナル經濟的利害ノ衝突アルコ  
トナレバ、今次ノ大戰ヲ以テてゆゝとん文明及  
ビ露西亞文明ノ間ニ於ケル經濟的鬭爭ニ外ナラ  
ズト見ルコトモ、一應ハ根據ナキ説トハ言ヘヌ。  
併シ是等ノ事實ハ、最モ明瞭ニ説明サルベキ一  
事、即チ何故ニ今次ノ戰爭ハ眞ニ世界戰爭ト名  
クベキ大戰爭トナルニ至リシカ、又何故ニ今次  
ノ戰爭ハ密ニ傍觀者ニノミナラズ、交戰者自身  
ニモ、實ハ英獨ノ鬭爭ニ外ナラズト考ヘラルル  
ニ至リシカト云フコトヲバ、闡明スルニ足ラザ  
ルモノデアアル。

若シ今次ノ戰爭ガ眞ニ英獨ノ鬭爭ニ外ナラズ  
トスルナラバ、其説明モ亦タ此ノ英獨ノ反感ニ  
本カナケレバ爲ラス。而シテ此見地ヨリ言ヘバ  
英國ハ實ニ過去三世紀餘ニ亘リ今次ノ戰爭ト略  
ボ同ジコトヲバ既ニ幾度カ繰リ返シ來リタル者  
デアアル。即チ第十七世紀ニ於イテ其ノ主タル敵  
ト爲セシモノハ和蘭デアアル。次イデ第十八世紀  
ニ入りテハ、常ニ佛蘭西ヲ以テ其ノ最大ノ敵ト  
シタ。而シテ今ヤ最後ニ英國ハ彼ノ獨逸ト角ヲ  
ブチ當テタ譯デアアル。

經濟的民族主義ノ第一期ニ於イテハ、獨逸ハ  
餘リ植民地ノ擴張ニハ意ヲ用ヒズシテ、寧ロ前  
世紀ニ於ケル英國ノ故智ニ倣ヒ、保護政策ヲフ  
武器ヲ用ヒテ盛ニ國內産業ノ發達ニ力ヲ注イダ  
セノデアアル。其後國家ノ統一確立シ産業ノ發達  
亦タ成就スルヤ、乃チ經濟的民族主義ノ第二期  
ニ入り、世界ノ市場ニ向ツテ其商品ノ販路ヲ求  
ムルコトト爲ツタ。獨逸ガ植民地ノ擴張ニ意ヲ  
注グニ至リシハ、即チ其結果デアアル。然ルニ更  
ニ今世紀ニ入りテハ、獨逸ハ經濟的民族主義ノ

第三期ニ進ミ、カクテ貨物ノ輸出ト同時ニ資本ノ輸出ヲモ試ムルコトナリ、始メテ英國ノ眞正ノ敵ト爲ルニ至ツタ。

此意味ニ於イテ今次ノ戰爭ハ、既往ノ戰爭ノ何レモ避クベカラザリシガ如ク、又避クベカラザリシモノデアル。其ノ開戦ノ責ヲ或ハ英國ニ歸シ或ハ獨逸ニ歸セントスルガ如キハ、近眼モ亦タ甚シト謂ハネバ爲ラヌ。此ノ兩國ヲ始メトシ世界ノ諸國ガ皆經濟社會ノ推移ニ依ツテ動かサレテ居ル、サウシテ如何ナル國モ其獨力ヲ以テ、此ノ世界經濟ノ推移ヲ左右シ得ルモノハ無イ。此ノ必然ノ運命ヲ免ル能ハザルニ至ツテハ英國モ獨逸モ壞太利モ露西亞モ變リハ無イ。『綠書』ヤ『白書』ヤ『黃書』ヲ調べテ、開戦ノ責任ヲ一二政治家ノ責任ニ歸セントスルガ如キハ、畢竟兇賊ニ類スル。避クベカラザル今次ノ戰爭ハ若シ今起ラザリセバ、必ズヤ數年後ヲ待タズシテ起ルベカリシモノデアル。